

2023年9月 昭和鯨城会会報 111号

# 昭和ニよう会便り



# 行事レポート

## 趣味の発表会

33期（生活A）川原 山田 浩



片岡さんによるリングのマジック

過日の5月19日(金)、昭和生涯学習センターにおいて、片岡晴彦さんによるマジックショーと、小川由美子さんによる琵琶の演奏、秋山敦子さんとお仲間の4人によるフラダンスが、約1時半にわたって開催された。

片岡さんは、得意な出し物の一つトランプと数字のマジック。いつもにこやかな笑顔で、もう何度も見せてもらっているが、今だにタネは全くわからない。だからおもしろいと深く考えずに見せていただいていた。



トランプのマジック

小川さんの琵琶演奏、琴や三味線は時々見かけるが、本物の琵琶を間近で見たのは初めてのこと。しかも、語りは源平合戦の「屋島の戦い」で、源氏的那須与一が、平家の立てた扇の的を見事射落としたシーン。思わず目をつむって、海上を想像しながら聴き入った。



小川さんの琵琶演奏「那須与一」



秋山さん達によるフラダンス  
(右から2人目が秋山さん)

秋山さん達によるフラダンス、高齢者なら誰でも知っているエルビス・プレスリーの「ブルーハワイ」の曲が流れる中、踊りが始まった。

一度、日本風の衣装にも変えられ、美空ひばりの「川の流れるように」など日本の歌謡曲にも合わせたフラダンスも見ることができた。

あいにく外は大雨であったため、観客は23名でしたが、あっという間と感じたほど楽しい演芸会であり、鑑賞会でした。片岡さん、小川さん、秋山さんたちも、少しは緊張されていたかも知れませんが、無芸の私からすると羨ましい限りであり、きっと楽しんでいただけたものと思います。



衣装を変えて



記念写真

# 行事レポート

## 富士見高原パノラマ日帰りの旅に参加

32期 (文化) 広路 小川 由美子

6月23日(金)長野県富士見町にある入笠山へマイクロバスに乗り行ってきました。その日は朝から雨が降り、山麓駅(1,050m)からゴンドラに15分乗り山頂駅(1,780m)に着いた時も降っていましたが、全員集合した時には雨も止んでいました。



入笠山湿原へ

まずは入笠山湿原まで行くことに決定。すずらん山野草公園に入るとすぐ、100万本もの日本すずらんが自生しているようですが、開花時期が過ぎて、チラホラと花のなごりが残っていました。

湿原に咲く紫のアヤメ、朱のツツジ、ピンクの九輪草など様々な花を左右に見ながら、長く続く木製の階段をゆっくりと下りました。

ここでは年間150種類もの山野草が楽しめるそうです。

湿原を過ぎて少し休憩後、元気な9名(女性はただ1人)は入笠山山頂(1,955m)を目指し、残りの人は別ルートにて展望台へ行きました。

ニッコウキスゲの咲く展望台からは富士山、八ヶ岳などが見えるそうですが、あいにくの雨で白くかすんでいました。

山頂登山を終えた9名も無事もどり、とても楽しい1日を過ごすことができました。



木製の階段を歩く



山頂駅での昼食



山頂にたどり着いた9名



紫のアヤメ



参加者全員での記念写真



朱のツツジ

# 行事レポート

## 落語を楽しむ会

32期（健康B） 吹上 伏屋 満

7月の行事は、冷房の効いた室内での催し物でした。行事委員長の伝手で来ていただいた笑門来福落語の会による落語会鑑賞でした。7月21日、昭和生涯学習センターにて、18名の会員が集まり、皆で即席の高座など会場をしつらえ、いざ、開演となりました。今回は、3人の落語家さんに演じていただきました。



落語家さんの紹介

一、 藤屋宿六	仲入り	一、 黄昏亭駄らく	一、 笑楽亭頂代	一、 粗忽長屋	笑門来福 落語会
------------	-----	--------------	-------------	------------	-------------

演題は、いずれも古典落語からだそうですが、いずれの落語家さんも導入部分のマクラはごく自然で、本題に入りやすく聞けました。サゲの部分は分かりにくく、これは聞き手の知識不足でした。

落語を生で聞くのは初めてでしたが、こういっては失礼ながら、玄人はだし、というか、知らずに落語を聞けば玄人と思うやも。テレビでは芸のない数多のお笑いタレントが



笑楽亭頂代さん



黄昏亭駄らくさん

席卷していますが、こうした落語はあまりお目にかかりませんから、当然ですね。

聞くとところによると、この落語の会には、老若様々な同好の方20名ほどの落語家さんが所属し、定期的に勉強会など開きつつ、色々な施設やイベントにて演じているとのこと。今回はその中の重鎮か、はたまたベテランか、どなたも声色等の話しぶりや仕草は手慣れており、分かりやすかったです。



藤屋宿六さん



落語家さん(1人中座)と参加会員



粗忽長屋

# 鯨城会活動

## 地域ミーティングの開催

33期（生活A）川原 山田 浩

6月14日(水)昭和区社会福祉協議会において、来春卒業予定で、昭和区にお住まいの鯨城学園37期生の皆さんを対象とした、地域ミーティング（高齢者疑似体験）が開催された。

昨年は大雨の天候も影響し、少ない参加者であったが、今年は男性7名、女性11名と合計18名の方々の参加があり、大変盛況であった。

中には、80歳を過ぎてみえるのではと思われる方も数人見えたが、皆さんとてもお元気で、身体の不自由さなど全くといっていいほど感じられなかった。

それでも、いずれは訪れるであろう耳や、手足の不調を実感してもらうため、重りや手袋などのプロテクターを装着して身体に負荷をかけ、日常生活における現在の自分との違いを疑似体験していただいた。



主催者挨拶



参加の皆さん



疑似体験セット装着

3人一組による装着疑似体験中には、初顔同志の方も自然と会話が生まれ、怪我をしないように声を掛け合って行動され、特に、視界不良が影響してか、階段の下りでは、皆さん手すりにつかまるなど慎重に降りて見えたのが印象的であった。

卒業生の私も経験したが、鯨城学園入

学中は、どうしてもクラス、クラブの仲間との交流が中心となり、昭和区内に居住するという地域のつながりはほとんどなかった。

今日、名古屋ウイメンズマラソンの交通整理や、堀川清掃などのボランティア活動は、各区単位で参加しており、卒業後のことを考えると、昭和区内という近くに住んでみえる皆さんに集まっていたことは、とても有意義であったと思います。



新聞を見る、読む



ペットボトルの開閉



階段の昇降

# 会員の広場

## 博物館を楽しむNO9 奄美大島・徳之島・与論島の旅

31期 (地域A) 松栄 細野 博行

令和5年2月中旬に奄美群島を訪れた。中部国際空港から鹿児島空港にて乗換えて奄美大島には午前11時に着いた。天気快晴であやまる岬に向かう。

サンゴ礁に囲まれた海岸は観光公園となっており「奄美市歴史民俗資料館」がある。ここに宇宿貝塚史跡があり千年前の墓や溝が保存のため上屋を設けてあった。奄美パーク内には、ドーム建築の「奄美の郷」があり奄美群島の観光紹介や自然、歴史、文化を映像や展示によって学べる施設だ。「田村一村記念美術館」は地元の画家で亜熱帯の植物や動物を独自のタッチで描いた。名瀬市街で宿泊。2日目朝は島中央の「黒潮の森マングローブパーク」に向かう。自然回帰型の公園で我々の目当てはカヌー体験だ。インストラクターがパドルの持ち方や使い方をレクチャーして、マングローブ原生林のなか川を遡るが天気快晴であり緑の原生林に吹く風は心地よい。

ここに世界遺産センターが併設されていた。

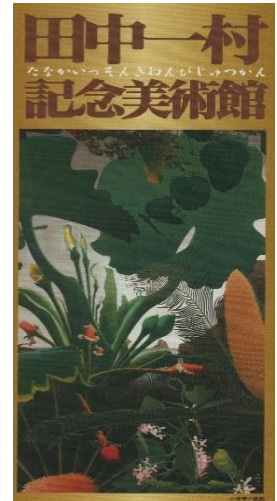
奄美大島・徳之島・沖縄北部・西表島は2021年7月に世界自然遺産登録された。名瀬に戻り「奄美市立博物館」に立ち寄る。3日目は早朝5時50分発のフェリーに乗って徳之島に向かう。

港では「日

本で一番早く収穫するじゃがいも」を売っている。名古屋に戻ったらスーパーマーケットに徳之島ジャガイモが並んでいた。伊仙町の「なくさみ館」は名物の闘牛の全天候型のドームだ。農家の方が重さ1トンもある牛で稽古をしているが 迫力がある。島南部には長寿世界一になった泉重千代翁の銅像が生家に建つ。南西部の犬田布岬は断崖絶壁の岬で戦艦大和の慰霊碑が建っている。ここで観光客が海を見ていて鯨のしっぽを見つけた。天城町の「ユイの館」は歴史民俗の資料館だ。天気が良く日差しが強く半袖がちょうどいい。初代朝潮太郎の記念館があり、昭和30年代に活躍した強かった横綱のだ。4日目は午前9時発のフェリーで与論島に向かう。与論島は1972年の沖縄返還までは、日本最南端として若者をはじめ観光客に人気があった。しかし今は人気がなくマラソン大会を目玉としている。夕食のキハダマグロの刺身、カツオのたたき、薩摩揚げや島ラッキョウが美味しい。5日目は与論島観光。島バスに与論城跡まで乗車してからウォーキングする、城は15世紀初め琉球北山王朝時代に造られた。ここに「サザンクロスセンター」があり歴史文化暮らしを展示している。5階にある360度パノラマ展望台からは沖縄本島が見渡せる。夜には南十字星がみえるだろう。その後与論空港14時30分発で那覇空港経由して名古屋に戻った。



カヌー体験



田村一村記念美術館



徳之島なくさみ館

# 会員の広場

## ガイドヘルパー知ってますか？

32期 (健康B) 吹上 伏屋 満

### ガイドヘルパーとは？

街中で、ヘルプマークを付けた障がい者の方を見かけると思いますが、ガイドヘルパーは、これらの身体・知的・精神・視覚の障がい者の方の移動支援を担っています。具体的にはグループホームや自宅から、公共交通機関を使って作業所や病院、買物など社会生活に必要な移動のお手伝いです。かつて隔離されがちだった障がい者の、インクルーシブ社会実現の一翼を担う仕事です。



ヘルプマーク

### 私の場合

6年前の春、40余年のサラリーマン生活を終えて、家族には余生を気楽に生きてってね、とも言われました。が、何もしないわけにもいかず、とりあえず鯉城学園とかいう老人大学に行ってみることに。

しかし、入学後様々な授業や講義を受ける中で、人生百年を想定した第2のロングライフを設計していく必要性を感じるようになりました。経済的にも、生き方も、まだまだおまけではなかったのです。

そこで、学園の講義の中で知った、名古屋市社会福祉協議会の生活援助員養成研修を受講しました。福祉の分野をここで初めて習いました。

そして生活援助員として名古屋市障害者・高齢者権利擁護センターに登録し、障がい者の方の金銭収受をお手伝いするのが、私の福祉の最初の仕事となりました。

次いで鯉城学園を卒業後、介護職員初任者研修を受講しました。介護の世界が、幅広く、課題山積であることを知りました。



研修後、生活援助員をやめ、ホームヘルパーになりました。仕事は高齢者や障がい者の方の訪問介護が主で、調理、清掃、買物の生活介護や、排泄、入浴などの身体介護など多岐にわたります。しかし、どれも、下手糞で、特に妻から褒められていた男の料理はダメ出しを受けました。ホームヘルパーでは優しくて経験豊かな女性にはかなわず、短期間で挫折しました。

そして、最後にガイドヘルパー。介護関係のシニア就職フェアで現在の事業所を知り、簡単な業務から始めて(つまり軽度の利用者さんの移動支援)3年半、ジジイでもそれなりにこなすことが出来るようになってきました。

### 利点

さて、ガイドヘルパーで得られたものは、①やり甲斐、②体力と知力の維持、③家計の助け、④障がい者への配慮や対応スキルアップ等々、一石四鳥と言えるでしょうか。

現役時代、ハンディキャップのある方を理解せず生きてきましたが、いざ自分の親が介護を受けるときには大変なお世話を受け、少しでも恩返しができればと思っていました。また、自分自身が明日にも要介護者や障がい者になるやも知れません。介護職員の不足が叫ばれており、自分に出来る範囲でこの仕事を続けていきたいと思っています。

# 名古屋市高年大学 昭和鯨城会

## 第21回 趣味の作品展

今年も昭和鯨城会会員の皆様の力作が、下記要領にて展示されます。皆様お誘い合わせのうえ、是非ご来場ください。

### 記

- 1 開催期間 令和5年10月12日(木)～14日(土)
- 2 開催時間 初日・2日目 10月12・13日(木・金) 10時～16時  
最終日 10月14日(土) 10時～15時
- 3 会場 名古屋市市政資料館 第2・3・4展示室  
(地下鉄名古屋城駅2番出口より東へ徒歩8分)
- 4 展示作品 写真、水彩画、水墨画、油絵、書、短歌、陶芸  
手工芸、ガラス工芸等

展示室内には休憩処を設けております。ご鑑賞後、お茶などを飲みながら、ご感想を頂けましたら、ありがたく存じます。

昭和鯨城会会長  
高島 善行

### 編集後記

新型コロナウイルスに対する自粛も解け、昭和鯨城会の活動も予定どおり進んでおります。10月には趣味の作品展も開催するので、会員皆さまからも広く、作品や原稿の提供をお願いします。

### 昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2023年9月111号

発行責任者 高島 善行  
広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司  
広報委員 杉江 恵理子、早瀬 芳二、川瀬 月江  
表紙写真 「あっ、だれか来た！」杉江 恵理子 (31期 美術)  
(写真家野田繁憲氏のポスターをもとに、氏の了解を得て描きました。  
トマムのエゾシカの群れです。)

名古屋市高年大学鯨城学園・昭和鯨城会共同発行